

令和5年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立馬込第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・既習事項や生活経験と結び付けて、問題作りを行うことを継続してきたため、主体的に学習に取り組む態度が身に付いてきている。

(2) 課題

- ・既習事項の確認をする時間をとり入れ、理科の用語や観察・実験器具の使い方の定着を目指す。
- ・観察・実験の結果の活用が十分でなかったため、結果の検討や考察について話し合う時間を取り入れながら学習を進める。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	達成率は約6割である。		
第5学年	達成率は約6割である。	(第4学年時) 達成率は7割強である。	
第6学年	達成率は7割弱である。	(第5学年時) 達成率は7割弱である。	(第4学年時) 達成率は約8割程度である。

達成率とは、目標値^{※1}以上の正答率^{※2}だった児童の割合

(目標値以上の児童数÷受験者数×100 (%))

例えば、達成率が7割ということは、目標値に達成した児童の割合が7割ということ。全体の児童が100人としたら、目標値に達しているのは70人で残りの30人は、前年度の基礎的な内容の定着に課題があることを示す。

※1 目標値とは、調査において前年度の基礎的な内容が定着していれば正答できると期待される正答率の値

※2 正答率とは、出題数に対する正解した問題数の割合

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね目標値に達している。 ・電気や磁石に関する問題の正答率が低いことから、他の領域に比べて課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね目標値を上回っている。 ・電気の通り道では、理由を説明することや問題を推測することが目標値を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率と目標値は概ね同じである。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね目標値と同じである。植物の成長や天気の変化では、正答率が目標値を上回っている。 ・5年生では、特に「物のあたたまり方」において、正答率が目標値を下回っている。 ・6年生では、「顕微鏡の使い方」の正答率が目標値を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生は、おおむね目標値を上回っており、特に星の観察や温度による空気の変わり方について大きく上回っている。 ・6年生は、目標値をやや下回っている。ものの溶け方に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5、6年生共に正答率は目標値を上回っている。

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業の始めに既習事項の確認を行い、単元の終わりの確かめを丁寧に行う。 ・「電気の通り道」では、実際に回路を作る活動を通して、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察を行うときには複数の自然の事物・現象を比較することを意識し、板書に示す。板書と児童の考えと関連させる。 ・身近な事象の共通点や差異点という視点をもって、問題作りを行うことや、仮説を立てることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入で身近な事象を例に出して、問題について児童の興味・関心を引き付けられるようにする。 ・授業の中で「問題」「予想」「実験」「結果」「考察」などの言葉を用いる。また、授業計画を明確にし、見通しをもった学習ができるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・観察・実験を行う際には、器具の使い方について動画を活用しながら確認し、確実に操作ができるようにする。・単元の最後に、単元の内容をタブレットやノートを使ってまとめたり、問題演習を行ったりする。	<ul style="list-style-type: none">・問題解決のために、どのような実験が必要になるか話し合う活動を取り入れながら、実験計画を立てる。・現象の要因や規則性を推論しながら調べることが意識し、計画的に学習を進める。・結果の検討や考察について共有する時間を取り入れる。・実験や観察を行う時には、それに関わる条件に目を向けながら調べられるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・単元の導入で、既習事項や児童の生活経験と結び付けながら、問題作りを行えるようにする。・時刻や場所によって授業内で十分な実験などができない場合には、動画を活用することや自分で調べる活動をとおして、一人一人が学習に取り組めるようにする。